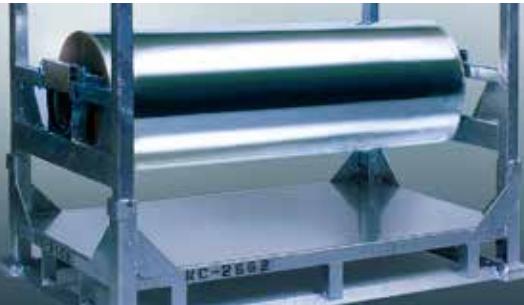
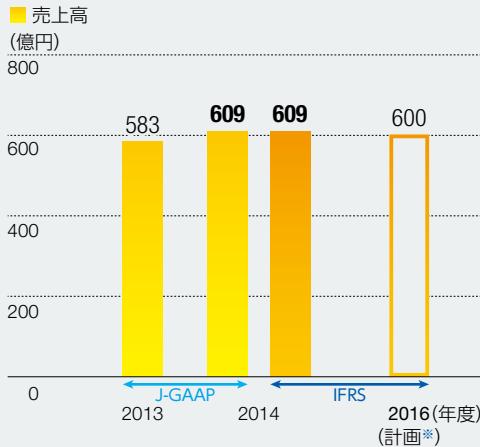


事業概況

産業用材料・機器事業 機能材料分野



売上高



2014年度の主な成果

フラットパネルディスプレイ向け偏光板保護フィルム

- 画面サイズの大型化トレンドが継続するなか、液晶テレビ向けVA-TACフィルムが堅調に推移。
- 中小型パネル向け薄膜TACフィルムも、スマートフォン需要の拡大に支えられ引き続き堅調。

新規領域

- ウインドウフィルムは新製品を投入。
- 有機EL照明がテーマパーク向けイルミネーション案件を獲得。秋には量産工場が稼働。

市場環境(機会と課題)

- ディスプレイ市場は、テレビやスマートフォンの伸びが継続。今後は、高精細化や屋外利用などニーズの多様化が進む。
- テレビの高画質化、大画面化の傾向は継続。量子ドットなどにより高画質を実現する技術も出始めた。
- 中小型ディスプレイ市場では、ウエアラブルやフリーフォームディスプレイなど、これまでになかった用途でのニーズが高まる。
- ディスプレイ以外の分野でも、遮熱、UVカット、防曇など多様な機能が要求されている。

強みと戦略

- ディスプレイ分野では、自然光に近い状態にすることで屋外利用時に偏光サングラスを使っての鮮明な画像認識を可能とし、顧客の生産性にも寄与できるQWPフィルムや、高精細なディスプレイ表示を可能とする量子ドットバリアフィルムなど、TACフィルムの技術・ノウハウを応用した製品開発を推進。
- このTACフィルム渗透だし製品は、技術・ノウハウだけでなく、既存の生産設備やサプライチェーンを使えるため、製品化のスピード、品質、コスト、生産性が強みとなる。
- ディスプレイ以外の分野でも、自動車向けのウインドウフィルムなどが、実用化に向けて順調に進捗。

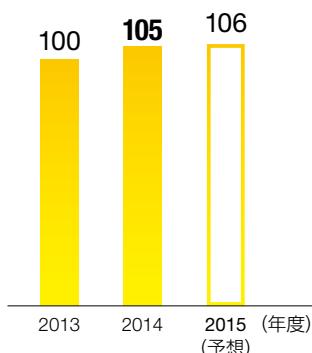
* 2014年5月に公表した数値

■ 2014年度の業績と2015年度の見通し

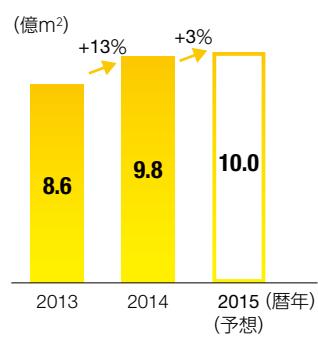
機能材料分野では、主力製品である液晶偏光板保護フィルム「TAC(トリアセチルセルロース)フィルム」が、大型液晶テレビやスマートフォンの好調な販売に支えられ、大型パネル向け、中小型パネル向けとも堅調に推移しました。なかでも、視野角拡大機能を付与したVA-TACフィルムや超薄膜タイプなど、モバイル機器の薄型化に寄与する製品が好調でした。

将来の成長を担う新規事業として取り組んでいる有機EL照明では、樹脂基板フレキシブル有機EL照明パネルとしては世界初となる量産工場が2014年秋に稼働を開始しました。12月には、日本の著名なテーマパークの屋外イルミネーションに採用される

機能材料分野の売上高



偏光板保護フィルム市場の推移と見通し



* 2013年度を100とした場合の指標

* 当社調べ

など、従来の照明光源にはない「薄く、軽く、曲げられる」という新たな価値が注目を集めています。

これらの結果、2014年度の当事業の外部顧客に対する売上高は、前期比5%増の609億円(IFRSベース 609億円)となりました。

2015年度は、TACフィルムは引き続き市場の需要に応えるとともに、周辺領域への取り組みを強化することで、事業基盤を固

めます。同時に、TACフィルムに続く柱となる事業を育てる足掛かりとなる年度とするために、ウインドウフィルムやパリアフィルムなど新製品の市場投入を目指します。これらにより、2015年度の当事業の見通しは、IFRSベースで、前期比2%増の売上高620億円を見込んでいます。

Focused Topic

自然光に近づけることでディスプレイ本来の色を再現する「QWPフィルム」

スマートフォンやタブレットなどの屋外利用が増えるなか、偏光サングラスを着用したままディスプレイを見た際に、角度によって暗く見えたり、変色して見えるという問題がでてきました。コニカミノルタは、自然光に近づけることで偏光サングラス着用下でもディスプレイ本来の色を再現できる「QWPフィルム」を開発。ロール・ツー・ロール方式の偏光板生産が可能なため、偏光板メーカーの生産性を飛躍的に向上させることができます。2016年春には量産体制を構築し、拡大展開していく予定です。

見え方のイメージ



成長戦略

当分野の成長エンジンとなっているのが、長年培ってきた写真用ベースフィルムの製造技術から生まれた、高品質のTACフィルムです。液晶テレビやパソコン、スマートフォンなどに幅広く利用されている液晶ディスプレイの基本構成材料である偏光板を保護する目的で使用され、堅調な需要を維持しています。

フェーズ0では、このTACフィルムの売上を確実に伸ばしています。4Kテレビの登場などにより、テレビサイズの拡大は引き続き進むと見られています。中小型ディスプレイ市場も成長を維持することで、総ディスプレイ面積は継続的に増加することが期待できますので、フィルムの使用量も拡大が見込まれます。価格面も含めた競争環境が厳しくなることが予想されますが、品質面でお客様の期待に応えることで競争を勝ち抜けるよう、附加価値の向上に努めます。

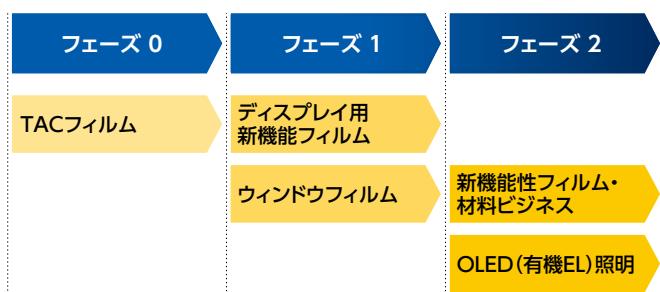
フェーズ1では、ディスプレイの利用シーンが拡大するなかで生まれる新たな領域において、これまで培ってきたお客様との太いパイプを軸として新たな価値を提案することで、TACフィルムの領域拡大を図ります。例えば、自然光に近づけることで偏光サングラス着用下でもディスプレイ本来の色を再現でき、目にも優しいQWPフィルムや、遮熱効果や高い偏光性能を持つ自動車用ウインドウフィルムに技術、ノウハウ、リソースを投入します(右図成長イメージ参照)。

加えてフェーズ2では、電圧をかけることで発光する有機材料

を利用した「有機EL照明」を本格展開していきます。軽く、薄く、フレキシブルな特性や、面全体で発光する性能、消費電力が少ないといった強みを活かして、建材や車載、モバイル用途などへ幅広く展開していきます。

このように、当社独自の材料技術に磨きをかけて、機能材料分野で新たな主力事業の創出に注力します。

成長ロードマップ



新機能フィルム事業成長イメージ(億円)

